
鉄棒行進

mimoz.k.withberry

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鉄棒行進

【Nコード】

N6937Y

【作者名】

mimoz.k.withberry

【あらすじ】

災害と恋愛のものがたり。

五月四日

今日も川原で落ち込んでいる。

学校の校庭のすぐ近くを、隣の大規模な総合公園の敷地との境目になる川が流れている。川は公園を一周していて、県最大の湖と海に分かれる。水質は淡水。

数本の橋に囲まれた陸の孤島のようなその公園は学校の通学路にも指定されていて、私も橋を渡って公園を横切りまた橋を渡って学校に来ている。

青臭い雑草の上に座って川を眺めながら、先生が背中を撫でてくれている。

大丈夫。絶対に成功するから。自分の課題ときちんと向き合おう。だって。

先生にこうして相談するようになって一週間。

私は先生の期待を裏切り続けているのに。なんで私はダメなんだろう。

体育の授業。運動会の練習。

丁字に並んだ鉄棒を、右左、右左と交互に掴んで行進する。

音楽に合わせながら真っ直ぐ進んだり、くぐって交差したり、後退

したり、止まったり、また進んだり。

一歩づつは全て、鉄棒の幅に決められる。

古くからの伝統があり、毎年六年生がその演目をするのを、五年生以下は憧れの目で見える。

最後には拍手喝采のスタンディングオベーション。

六年生になる前。五年生の三月から半年間、練習と言うより訓練が始まる。

軍隊の様に指導を受ける。

他の授業では天使のように優しい先生方も、殴る蹴る怒鳴るは当たり前。竹刀や鞭の様なもので叩かれたりもする。

でも、この時ばかりはPTAも口出ししない。

私達も栄光を目指して、その訓練を必死で受ける。

体育の授業は、五年生で取って置いた半年分と六年生の一年分をこの半年に詰め込むので、ここで体操着はボロボロになるらしい。

今日も落ち込みながら家に帰る。

帰ったらお母さんに演目の進行状況を聴かれて、お姉ちゃんの時はいったった、ああだったと言われ、あなたも頑張るのよと励まされる。

五月八日

友達もそんな風に言われてると、お昼休みの話題に上った。

五月三十一日

訓練が進むに連れてだんだんとエスカレートしていく先生方の暴行。

演目の音楽やパターンは伝統の物を使うので、その頃にはもうお客様に見せられる様になっていないといけならしい。

私達も努力して付いては行くものの、なかなか上手に出来ず校舎の最上階から先生が怒鳴る。

ラインが美しくない、リズムがあっていない、全体のバランスが良くない。

お前達に本当にできるのか！
出来ないなら演目変えるぞ！
出来るなら最初から真面目にやれ！

他校から新任で来た先生は、それまではまあまあと言って怒鳴ったり暴行を仲裁するものの、この頃から他の先生と同様に罵倒と暴行を始める。

なんで出来ないんだ！
お前達はダメ人間だ！
人生の敗者だ！

でも、先生方も私達も目指す場所は一緒。

運動会の栄光。

先生方も私達の為にそうしてくれているのは分かっているから、付いていける。

内容によっては体育大学の付属中学にスカウトされたり、将来的に高校の入試にも有利に働いたり、県から表彰されたりもする。

その為に四年生くらいから転入してくる子も毎年十数人いる。逆に中学受験の為に電光していく友達も同じくらいいる。

先生方も、教育委員会か何か…よくわからないけど、良い事があるらしい。

私達の将来にも関わる重大儀式だから、頑張らなきゃ。

明日から月・水・金曜日の放課後も七時まで訓練する事になるから家族の人にきちんと伝える様にと、帰りのホームルームで言われた。その旨が書かれたお便りも配られた。

六月七日

始まる時には夜七時までと言う事だったが、放課後訓練のある日は夜九時まで訓練。

さすがにPTAも抗議するかと思ったら、そんなに遅れているんですか？と演目の心配。

六月十五日

遅くまで居残って自主トレも始まった。

帰りが遅くなる日は公園を通るのが怖いので、同じ方向の友達と集団下校

。

それでも怖い日は先生が公園の外までついてきてくれる。

六月二十三日

今日も川原で先生が背中を撫でてくれた。

私がいちゃんと交差出来なかったから淳君が竹刀で二十分くらい暴行を受けた。

お昼休みに淳君に謝った。淳君は、気にするなよ。俺が上手く交差出来なかったんだから。俺達、一緒に頑張ろう。

私が悪いのに。なんで私はダメなんだろう。

先生は、大丈夫。みんなで乗り越えよう。もっと自分をしっかりと持って責任感を負えば成長するんだから。ね。

夜から雨が降り始めた。

六月二十七日

雨は止まない。体育館でのトレーニングと行進練習。先生方は苛立っている。私達も苛立つ。

六月三十日

先生雨でもいいです、外で練習させて下さい。

生徒会長が一声を挙げると、一気にみんなが職員室に抗議に押し寄せる。

先生はにこにこ笑いながらお前達は仕方がない奴らだなあと言いながら腰を上げてくれる。

私達は嬉しくってわぁっと叫びながら走って校庭に出て行って鉄棒を設置する。

今日は夜十時まで訓練に夢中に励んだ。

さすがに遅くなってしまったので、公園を出る所まで先生が付いてきてくれた。

七月十日

雨だったけど気にせずに草原に座り込み、いつもの様に川原で慰められていると大きな地鳴りがした。

何が起こっているのかが分からなかった。驚いて動けなくなっている私を抱き上げて、先生は校舎に向かって走った。

酷い地震の様に地面が揺れて先生は何度も転んだ。私の腕を掴んで引き摺りまた転んで、でも手はずっと掴んでいて、また抱き上げて走って何とか校舎に転がり込んだ。

しばらく保健室で身体を乾かし、擦り傷を治療してもらい、その間先生は何度も心配して保健室を覗きに来了。

大丈夫か？テレビで今速報やってるんだけど、まだ原因がわからないみたいで…とにかくここに居るよ、ここなら大丈夫だから。すぐ戻ってくるから、ちょっと行ってくるね。

落ち着いた頃、先生に付き添われ職員室のテレビで速報を見た。

県海沖で地震が起こり、休火山だった山が地鳴りを起こし、湖に繋がっているダムが決壊し、川が氾濫。

公園はほぼ壊滅。学校周辺に多大な浸水被害が出ているらしかった。

私の自宅前の道路が陥没している様子がテレビで流れた。

先生！電話！お母さんに、電話！

震えている私はボタンを押すことも出来なくて、電話番号も頭がぐちゃぐちゃで分からなくなって、先生が急いで調べてくれた。

自宅の電話は繋がらなかった。緊急連絡先のお母さんの携帯電話も繋がらなかった。

先生は、回線が混雑しているだけだ。大丈夫だから、と言って保健室に連れていかれた。ベットに寝かされ、手を握ってくれた。

大丈夫、大丈夫だから。

私はそのまま眠ってしまった。眠る直前に、遠くで先生の声がした。ちよつと行つてくるね。すぐ戻つてくるから…

目を覚ました時、目の前に先生がいた。

目、覚めたか？大丈夫か？ と、おでこを撫でた。

うん…時計を見ると夜の八時を過ぎていた。

先生、お母さんとお姉ちゃん大丈夫かなあ。

先生は笑顔でもちろん、と頷いた。ちよつと待つて。頭を撫でながらそう言つと出ていつてしまった。

そう言えば何だか騒々しい。体育館の方からバタバタと音がするし廊下でも日中の学校よりも多くの人の声がする様だ。

緊急避難とかかな。

保健室のドアが勢いよく開く音。聞き覚えのある、お母さんの声。

お母さんは私を強く抱き締めて、良かった、目が覚めたのね。今お祖母ちゃんを体育館に運んでいたの。

一緒にいらなくてごめんね。お姉ちゃんもお父さんも無事よ。

それだけで良かった。

私はお母さんと一緒に先生にお辞儀をして家族の元に行った。

次の日の朝、職員室から運ばれたテレビで被害状況が大体見えてきた。

幸いな事に死亡者一名、重傷者は数名程度で、軽傷者が私を含めて数十人、被害は大体が浸水で、そんなに酷い災害では無いらしい。

七月十三日

家族も私も家の事が気になって仕方がなかった。

まだ住めるのかな。家の前の道路が陥没していたから、お家傾いたりしてるのかな。

大人達が口々に市長に訴えると、帰宅志願者は一時帰宅を許された。

一家につき二名までと制限がかかり、お母さんとお父さんがお家に帰った。

通帳や現金、貴金属類はお母さんが避難する時に、棚ごとバッグに詰め込んで持ってきていたから、重要な物やすぐに取りに戻らなければならぬ物は特に無かった。

何かあるかと聴かれたので、一年生になる前のクリスマスに貰った熊の縫いぐるみを頼んだ。

戻ってきたお母さんの手には縫いぐるみとお姉ちゃんの日記帳。家族の人に替え。ペットボトルとタッパ。

お父さんも大きなリュックを抱えていた。

お父さんのデジタルカメラで、家の変わり果てた姿を目にした。

二階の私とお姉ちゃんの部屋は、どうやら荒れているようだ。片付けに帰りたいなあ。

一階は窓ガラスが全て割れ、浸水した跡が残る。

なんかね、震災でお家に行けないと制限されていた間に強盗が入ったみたいなのよ。お隣もお向かいさんもそうだったみたい。酷い事する人がいるものね。家はみんなが無事に揃ってるし、通帳や保険証もあるからなんとか大丈夫そうね。でも本当に酷い事する人がいるものね。

明日香ちゃんのお家、被害にあっただって。明日香ちゃんのお母さんが帰ってきた時に泣いてた。

七月十四日

校庭で先生に会った。夜、体育館が暑くって外に出た所でたまたま出会った。

どうした？元氣か？

うん、大丈夫。先生のお家は大丈夫だったの？

お家か、この前帰ったよ。先生はマンションの三階だから、浸水とかなかったよ。荒れてたけど住めない事はないかな。明日のお昼に片付けに帰ろうと思ってるよ。

そか。

今日は十五夜だなあ。満月だ。花火大会、中止になっちゃったな。

うん。

川原の方まで行かないか？

うん。先生、抱っこして。

甘えん坊だな。ほら、おいで。

お姫様だっこしてもらった。先生が必死になって私を校舎まで連れてった時と同じように。

先生の腕と手の甲の擦り傷と、私の脇腹と肩と右のふくらはぎの擦り傷が合致した。

なんだか嬉しかった。

校庭の中場まで行くと先生は止まった。先生の胸に耳をくっつけて鼓動を聴くのに夢中だった私は止まった瞬間少し驚いて先生を見上げた。

先生は氾濫が収まりかけた川を見つめていた。川原は浸水して校庭の一部まではまだ水が漂っていた。

これ以上行くのは危険だな。

先生は私を下ろし、その場であぐらをかいだ。

先生。まだ抱っこ。

先生は黙って川を見つめていた。私はその膝に座ってまた胸に耳をくっつけて鼓動を聴いていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6937y/>

鉄棒行進

2011年11月20日21時40分発行